

保存的治療により腹膜透析を継続しえた 横隔膜交通症の1例

あお き あき ひこ はら たか ひこ
青 木 明 彦¹⁾ 原 貴 彦¹⁾
い とう ひで あき また が けん た ろう
伊 藤 英 昭¹⁾ 又 賀 建 太郎²⁾

キーワード：横隔膜交通症，腹膜透析

要 旨

症例は58歳，女性で，原疾患はIgA腎症。平成27年1月26日血液透析（HD）導入，同年2月9日より腹膜透析（CAPD）を開始，夜間を中心とした自動腹膜透析（APD）に移行した。同年4月21日右側胸水の増加を認め入院，胸水糖濃度 228 mg/dl で横隔膜交通症と診断，APD を中止し昼間だけの腹膜透析に変更後胸水が減少したため退院した。

はじめに

横隔膜交通症は腹膜透析における合併症の一つで，透析液が胸腔内へ移行することにより胸水貯留をきたす。治療には透析方法の変更などによる保存的治療法と，瘻孔閉鎖術などの外科的治療法があるが，腹膜透析の中止を余儀なくされることも少なくない。

今回我々は保存的治療により軽快し腹膜透析を継続しえた横隔膜交通症の1例を経験したので報告する。

症 例

患者：58歳，女性。

Akihiko AOKI et al.

1) 益田赤十字病院泌尿器科 2) 島根大学医学部内科学第一
連絡先：〒698-8501 益田市乙吉町イ103-1
益田赤十字病院泌尿器科

主訴：咳嗽。

既往歴：40歳，蛋白尿。42歳，IgA腎症にてステロイドを中心とした治療を開始。57歳，左乳がん手術（T2N0MX，stage II A）

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：平成27年1月26日乳がん局所再発にて当院外科に入院，同日HD導入した（BUN 85mg/dl，Cr 7.7mg/dl）。1月28日乳がん再手術の際，腹膜透析用カテーテルを留置した。2月9日泌尿器科に転科しCAPDを開始，APDに移行した。

4月20日定期受診時，咳嗽あり。右胸水の増加を認め4月21日入院した。

身体所見：身長 150 cm，体重 46.6 kg，血圧 139/108 mmHg，脈拍 70/min，体温 36.5℃，左乳房欠損。

検査所見（表1）：入院4日目に胸水穿刺を行い，胸水糖濃度が血糖の2倍以上であった。